

今年のお天候は如何に？

野菜価格の現状と3ヶ月長期予報

3月に入り、高知や宮崎などでは3月中旬以降から早生のお米品種の作付が開始し今年も田植えのスタートが切れ春本番となってきた。全国のお生産者は今後のお天候が気になる所となっているのだが、今年も何かオカシイ。何がおかしいかというおと昨年とは異なり例年と比べて全く雪や雨が降らないというお過言ではない位、1月から3月まで降らない年となっている。関東でもこの影響からか昨年とは打って変わって根菜類や葉茎菜類においては生育が前進傾向となり肥大も良好にて豊作となっている。一方で価格の方はというと、主要14品目（だいこん・にんじん・はくさい・キャベツ・ほうれんそう・ねぎ・レタス・きゅうり・なす・トマト・ピーマン・ばれいしょ・さといも・たまねぎ）の中できゅうり、ピーマン、さといも、たまねぎはほぼ前年並み～前年以上だがその他は前年比40%～80%と豊作貧乏の装いだ。3月26日に発表された農水省の4月における野菜の生育状況及び価格見通しについてもきゅうり、なす、トマト、ピーマン、さといも以外は安値水準で推移すると見通されている。

関東だけではなく全般的に気候が前倒しになっているのではいかと思わせる位のお天候だ。岩手のお生産者の話では、平年ではまだ3月は山や田んぼに雪が満々と積もって残っているのだが、経験したことがない光景が広がっているおと事。既に田んぼの土が露出しているところが多く場所によっては乾燥が影響して土煙が立っている圃場が見られる状況なのだ。これは岩手だけでなく東北のどの県でも同様の声が聞こえてくる。会津では昨年ダムのお水が干上がる経験をしたのだが、例年よりもダムのお貯水量が10%低いおと事でおと経験した悪夢が蘇るとの声も聞こえて来た。

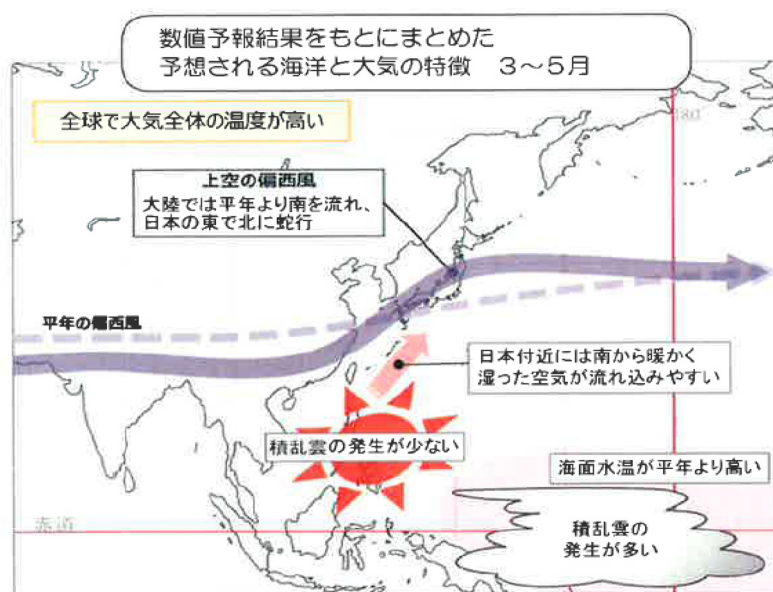
さて、気になる今後の天気だが気象庁は3ヶ月（3～5月）の長期予報を発信している。日本付近における予想される海洋と大気の特徴として、以下の通りとなっている。

- 地球温暖化の影響等により、世界的に大気全体の温度が高い。
- エルニーニョ現象が続き、ニューギニアの東から太平洋東部では海面水温が平年より高く、積乱雲の発生が多い見込み。南シナ海～フィリピンの東では積乱雲の発生が少ない見込み。

○上空の偏西風は、大陸では平年より南を流る一方、日本の東で北に蛇行する見込み。

○日本付近には南から暖かく湿った空気が流れ込み易く、寒気の影響を受けにくい見込み。

総括すると、気象庁の見通しでは向こう3ヶ月は全国的に暖かい空気に覆われやすく、気温は高い見込み。また、降水量では各地域において北・東日本の日本海側ではほぼ前年並みの見込み、東日本の太平洋側および西日本、沖縄・奄美地方では前年並みか多い見込みとなっている。最後に、昨年のような局地的な短期間の集中豪雨により農作物の被害とならない年であって欲しい。



北から南から ～札幌市時計台～

当社札幌支店の近くには「時計台」があるが、観光客が多くゆっくりと見学した事は無かった。昨年、20年ぶりの改修工事を実施しており、屋根と外壁が塗り替えられてキレイになった。改修後、驚くのは時計台の壁の色で、白のイメージが強いと思いますが、本当の色は数色を配合したもので白よりも緑がかって見える。

◆最初は時計メインの建物ではなかった！？

実は「時計台」という名前は愛称で、正式名称は「旧札幌農学校演武場」と言う。その名の通り、元は1876年（明治9年）に北海道開拓の指導者を育成する目的で開校した札幌農学校（北海道大学の前身）の施設として建てられ、当時は時計がメインではなく、1階は研究室と講義室、2階は兵式訓練や入学式・卒業式などを行う中央講堂として使用されていた。では、いつから「時計台」と呼ばれているかということ、札幌農学校が現北海道大学のキャンパスへ移転し、演武場を当時の札幌区が借り受けた1903年（明治36年）から。「時計台」は1906年（明治39年）に街区の整備により、時計塔と時計機械をつけたまま約100メートル南の現在の位置まで引いて移動され、その後は教育団体の事務所や文化活動の場、軍用施設、市立図書館などに利用されてきた歴史を持っている。



◆明治時代の姿のまま時を刻む最古の塔時計！？

明治・大正時代の姿のまま動いている塔時計は国内にわずか3機しかない。その中で一番古いのが札幌市時計台である。実は演武場が完成した当初、時計塔は付いていなかった。現在の時計台の姿になったのは完成から約3年後。当時の開拓長官、黒田清隆の指示によって時計が据え付けられた。以後約140年もの間、大きな改修を経ることなく正確に時を刻み、毎正時鐘を鳴らしている札幌市時計台は、まさに日本における奇跡の時計でもある。



◆時計台の時計は電気も電池も使わずに動いている！？

時計台の時計って、実は電気や電池などを使っていないのをご存知ですか？時計台の動力は「重り」で、3日1度、人力で重りの巻き上げ作業をしている。重りの石は1881年（明治14年）に豊平川から持ってきたもので、今でも大切に使っている。

毎朝9時15分から10分ほど、2階ホールに展示してある「兄弟時計」（ハワード社製）を使って、重りの巻き上げ実演と機械の説明をしているので、是非一度見てみて下さい。1階展示室は札幌農学校や時計台の歴史、学生たちの様子を伝えるパネルや模型が並び、2階ホールは札幌農学校時代の卒業式の情景を復元展示しており、夜間は音楽会、講演会、結婚式などホールとして貸し出している。最大150人まで収容できるホールは音響効果が良く、利用料もリーズナブルなことから人気が高まっている。

札幌市を代表する観光名所、札幌市時計台。外観の美しさもさることながら、館内は、時計台の歴史を学べたり、大きな時計が動く仕組みが見られたりと、魅力がいっぱいある。これから北海道は長く・寒い冬を終え、暖かく・素晴らしい季節を迎えますので、巷では「日本の三大がっかり名所？」とも言われているみたいですが、生まれ変わった時計台を札幌に来られる機会には是非、立寄られてみてはいかがでしょうか。（札幌支店）

東京では桜が満開となりましたが寒の戻りで肌寒い日もあり、まだまだ冬物が活躍する日もありますね。寒暖差で体調を崩されないようにお気を付けてください。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>